

## 開催にあたって

最上川は古くから人々の交通路となり、物資流通の道となり、そして文化を運ぶ道となってきた、われわれ県民生活になくてはならない、まさに「母なる川」です。

現代でも、上水道・農業用水・工業用水の貴重な水源として、また観光資源として、さらに私たちの生活にうるおいをあたえる空間として、その役割は増すばかりです。最近では全県的に、その「母なる川」の姿と現状を見直し、より清らかな姿で将来に伝えていこうという取り組みが、様々な組織で多様な形で進められています。

本展は、近世・近代に物流・文化の両面で本県の大動脈であった最上川舟運を取り上げ、舟運発展に寄与した「人」、舟運になくてはならなかった「物」、舟運の安全を願った人々の「心」、という3つの角度から「母なる川」と先人との関わり方について、理解を深めようとするものです。

本展が、今後の私たち県民と最上川との関係を考えていく上での一助となれば幸いです。

本展開催にあたり、貴重な資料をご出展くださった方々、ご指導・ご協力賜った方々に厚くお礼を申し上げます。

### ◇特別展記念講演会

#### 「絵図に描かれた最上川」

講師：茨城大学教育学部教授

小野寺 淳 氏

日時：平成15年10月11日(土) 14:00～

会場：当館講堂

### ◇展示解説会

10月5日(日)、10月12日(日)、11月3日(月)

14:00から担当研究員が展示の解説をします。



特別展

# 最上川舟運を支えた 人・物・心

松川舟運図屏風  
宮坂考古館 所蔵

2003年9月27日(土)～11月16日(日)

山形県立博物館



# 展示室の ごあんない



小鷄飼船模型



船ランプ



金ずり



三難所の一つ 隼付近



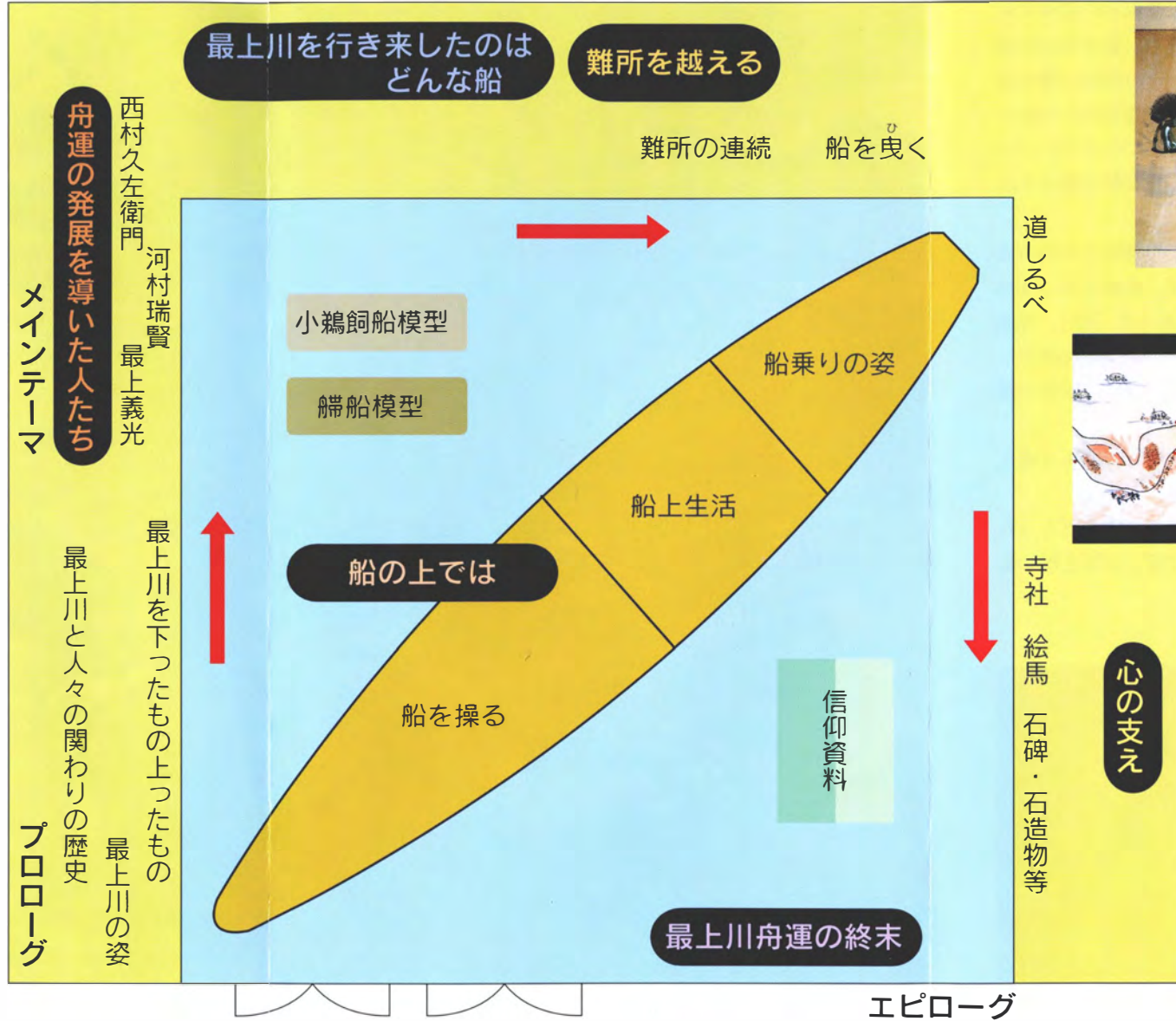
白鷹町黒滝付近  
西村久左衛門によって開削され  
船が通れるようになった。



紅染衣装



紅花



船曳き図 (部分)



須川・最上川絵図 (部分)



船型千手観音像